

この学校にわたしたち

2022. 11. 29

N048

協働しながら解決する力を…

エジプトで行われた気候変動対策の国連会議「COP27」では連日、活発な議論がなされました。日本各地でも近年は“観測史上初”と言われる豪雨による洪水が頻繁に起き、テレビのニュースを賑わわしています。パキスタンでは6月に未曾有の洪水により、国土の3分の1が水没、3300人が被害を受けたとされています。（日本赤十字社）同国では今なお野外での生活を余儀なくされている国民が多数いるそうです。そんな中、自分も被災しながら、他者の救援にあたっている人が多くいることを知り、国連グテーレス事務総長は希望を覚えたそうです。近年、地球温暖化によると思われる異常気象や災害が世界中のあちらこちらで起こっており、また、その頻度も加速度的に増加の一途をたどっています。グテーレス事務総長は”より迅速かつ大胆な気候変動対策に向けて全員が手を携えて取り組む必要があります。“と述べるとともに”人類に残された選択肢は協力するか滅びるかである“と述べられたそうです。新しい学習指導要領の中には、「これからの学校には、（略）一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓ひらき、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と書かれていますが、これからの世の中、自分1人や自国のみで解決することが困難で、他者・他国とともに知恵を出しながら解決をしていく時代になります。学校での授業はこのことを大切にしながら、自分の考えを書いたり、話し合ったりすることを多く取り入れています。ご家庭ではテレビや新聞で”COP27“等社会の出来事についてお子様との話題にいただければ幸いです。

にこキラ集会のあとで…

11月26日に今年1年、人権学習で学んだことを発表するにこキラ集会が行われました。実はこの日、ハッ山小学校区在住で現在、市内の特別支援学校に通っている3年生の子どもも来てくれていました。私は折角、来てくれたのにその子に話しかけることができず申し訳ない気持ちになり、午後、私はその子に手紙を書き、自宅を訪問しました。歩いて学校に向かって帰ってくる途中、その子が一生懸命走ってきてくれました。私は「今日は来てくれてありがとう。また、いつでも来てください。」と声をかけると「ありがとう」と笑顔で答えてくれました。自分の学校ではない校長を一生懸命追いかけてくれたこの子の純粋な心を考えると年甲斐もなく？年齢のせい？胸が熱くなりました。子どもの純粋な眼差しを見ながら、改めて自身の教育の原点を思い出した気がしました。在籍しているとか、していないとかでなく、誰一人取り残さない精神ですべての子どもに教育に当たっていきたいと思います。

